

第 41 回日本小児感染症学会シンポジウム 2

福井県における麻疹対策の現状と問題点

橋 本 剛太郎*

I. 福井県の MR 接種率

2006 年度から MR 2 期接種が始まり、福井県の接種率は 91.4% で全国 1 位、2007 年度は 94.4% で 3 位であった。2008 年度から始まった MR 3 期、4 期は各々 95.5%、91.1% で、全国 1 位と 2 位である。また MR 1 期は県内すべての市町で 2 歳児の接種済率が 95% 以上である。接種方法は原則として個別接種で例外的に MR 3 期では 17 市町のうち 4 市町が集団接種を採用している。福井県の成績は個別接種でも十分高い接種率が達成できることを示している。

このような高い接種率はどのように達成されたのだろうか。

II. 未接種者に直接勧奨

保護者の予防接種に対するスタンスは積極的に受ける人から受け身な人まで幅広い。積極的な人たちは通知だけでも受けるので 60~70% の接種率はそれほど苦勞しなくても達成できるだろう。しかし 90% 以上を目指すためには受け身な人たちへの働きかけが必要になる。この人たちに対してはちらしやポスター、新聞記事などの不特定多数に対する呼びかけは効果がないので、未接種者を特定して個別に直接勧奨することが必要になる。

つまり、高い接種率を達成するには、未接種者に直接勧奨することが重要で、それには未接種者をいつでも容易に把握できる体制が必要になり、

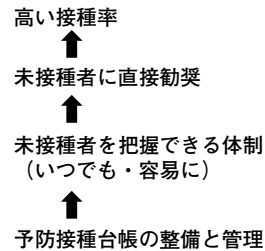


図 1

そのためには予防接種台帳を整備してきちんと管理することが求められる、ということになる (図 1)。

III. 福井県小児科医会の取り組み

福井県では 2003 年から県小児科医会の事業としてすべての市町で「予防接種台帳に基づく予防接種率調査」を続けている。

予防接種台帳には住所、氏名や生年月日などとともに種々の予防接種を実施した年月日、ロット番号、接種医師名などが記載されている。この台帳がきちんと管理・更新されてさえいれば、これを年齢別やワクチン別に集計することによって表のような一覧表ができあがり、正確な接種「済み」者数 (率) がわかる。

調査開始以前には予防接種台帳が整備されていない市町もあったが、医会と県健康増進課の働きかけで県内すべての市町で完備し、以後毎年、正確な予防接種 (済) 率調査を継続している。

* 福井県小児科医会・予防接種委員会委員長/はしもと小児科クリニック Gotaro Hashimoto
〔〒 915-0051 越前市帆山町 10-5-1〕 (連絡先)

表 A 市の予防接種済み者数 (率)

平成 20 年 3 月 31 日現在

	住民数	予 防 接 種 済 の 人 数												
		BCG	ポリオ 1	ポリオ 2	三混 1	三混 2	三混 3	三混 追加	麻疹	風疹	MR 2	日脳 1	日脳 2	日脳 追加
0 歳児	760	532 (70%)	172 (23%)	0 (0%)	417 (55%)	351 (46%)	261 (34%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
1 歳児	770	753 (98%)	724 (94%)	489 (64%)	737 (96%)	724 (94%)	705 (92%)	137 (18%)	615 (80%)	614 (80%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
2 歳児	757	743 (98%)	736 (97%)	707 (93%)	732 (97%)	724 (96%)	716 (95%)	536 (71%)	730 (96%)	728 (96%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
3 歳児	780	760 (97%)	764 (98%)	751 (96%)	758 (97%)	755 (97%)	737 (94%)	660 (85%)	733 (94%)	732 (94%)	0 (0%)	14 (2%)	11 (1%)	0 (0%)
4 歳児	837	813 (97%)	824 (98%)	816 (97%)	814 (97%)	806 (96%)	790 (94%)	737 (88%)	802 (96%)	788 (94%)	0 (0%)	28 (3%)	25 (3%)	1 (0%)
5 歳児	813	791 (97%)	801 (99%)	799 (98%)	793 (98%)	792 (97%)	779 (96%)	733 (90%)	790 (97%)	782 (96%)	3 (0%)	88 (11%)	57 (7%)	6 (1%)
6 歳児	833	802 (96%)	807 (97%)	805 (97%)	805 (97%)	798 (96%)	779 (94%)	770 (92%)	795 (95%)	780 (94%)	757 (91%)	622 (75%)	553 (66%)	117 (14%)
7 歳児	847	803 (95%)	812 (96%)	809 (96%)	805 (95%)	800 (94%)	781 (92%)	770 (91%)	792 (94%)	785 (93%)	752 (89%)	746 (88%)	721 (85%)	489 (58%)

MR 1 期を接種した子の数は麻疹と風疹にそれぞれ記入。

IV. 未接種者を把握できる

予防接種台帳に基づいて接種済み者数がかかるということは未接種者数がかかるということであり、コンピュータを操作すれば未接種者の住所氏名の一覧表が出てくるということになる。未接種者を容易に把握することができるので直接勧奨することが可能になり、その結果福井県ではすべての定期接種において高い接種率が得られるようになった。

このような、いわば「福井県方式」を 5 年間続けてきたという実績があったために、MR 2 期、3 期、4 期が始まっても同じような対応ができて、高い接種率となったのではないかと考えている。

このシンポジウムは麻疹の予防接種率を上げる、というテーマであるが、もう少し視野を広げて、すべての予防接種の接種率を上げるためにはどうしたらいいか、その全体像のなかで、特に MR についてはどんな工夫が必要かを考える、そういう視点を忘れないようにしたい。

V. 福井県の MR 1 期接種率

MR 1 期の接種済み率は 2 歳児以上の全年齢で 95% 以上なので、理論的には県内の幼児の間では麻疹の流行はまず起こらない、と考えてよい。実際、福井県では 2004 年から 3 年間は麻疹の発生はほとんどなかった。全国的に流行した 2007 年と 2008 年にはさすがに 13 人の発生があったが、ほとんどが中学生以上で、しかも二次発生がないというのが特徴であった。つまり、麻疹が発生しても周囲がワクチンを済ませているので、感染が広がらないのである。

MR 2 期もこのまま高い接種率が続けば幼児だけでなく学童の間でも麻疹の発生はゼロになるだろう。われわれは近い将来の夢として、全国に先駆けて麻疹排除宣言ができるようになりたいと期待している。

VI. 福井県の MR 3 期・4 期の接種率

県平均の MR 3 期接種率は 95.5%、MR 4 期は

91.1%であるが、なかでも注目したいのは勝山市（人口3万人）の接種率である。個別接種によって6月末にはもうMR3期が91.2%、4期が84.1%に達し、12月末にはそれぞれ97.5%、90.7%という驚異的な数字を達成した。

その理由を担当者に尋ねたところ、まず3月中に個人通知を送って春休み（4月1日以降）に受けるようキャンペーンをしたこと、また3月中に学校との連絡会をもって生徒の予防接種教育や指導をお願いしたこと、そして早くも5月には未接種者を洗い出して学校からも市からもダイレクトメールや最終的には電話で勧奨した、ということだった。早期実施、市と学校との連携、未接種者への直接勧奨、が高い接種率の理由であった（図2）。

Ⅶ. MR3期・4期の集団接種

最近全国各地でMR3期と4期に関しては集団接種にすべきだという意見が強くなっている。その理由の第一は、個別接種では高い接種率を達成できない、というものだが、福井県の成績をみればそれは理由にならないだろう。第二の理由は、5年間の臨時措置なのだから予防接種の社会的意義のほうをより重視して緊急避難というかたちで集団接種をする、というものである。この理由は理解できる。

また、集団接種のやり方についても、個別接種で努力をしても達成できないときに年度末にやむを得ず集団接種を行う、という考えと、年度の最初から集団接種を行うという考えがある。最近は後者の意見が強くなっているようで、今年は個別で低率だったから来年は4月から集団だ、というやや安易かと思われるような声が聞かれる。

MR3期、4期に一番大切なのは生徒たちに予防接種の意義や大切さを伝えて自らの足で病院へ受けに行くという判断をさせる、体験をさせる、という教育である。しかし現状では、生徒たちのかなりの部分が予防接種の大切さや意義を十分に理解していない。それを教育するには多大なエネルギーを必要とするが、もし安易に集団接種が導入されると教育がおざなりになってしまう。予防接種教育や体験を十分に受けなかった彼らは将来自

・3月に通知「春休みに受けましょう」
早期実施

・3月に学校との連絡会
生徒への予防接種教育

・5月に接種状況を集計
 市からも学校からも
未接種の生徒に直接勧奨

図2 勝山市の高接種率達成の理由

分の子どもに予防接種を積極的に受けさせるだろうか？

予防接種を自らの意思で受ける、という教育をこつこつと続ける長期的な視点を忘れないことが大切である。今は短期的な要請として接種率を上げるといふ喫緊の課題があるので、そちらにウエイトを置かざるを得ないが、「残念ながら集団接種になった」という、力及ばなかった心の痛みのようなものを自覚して、来年もう一度個別接種で頑張ってみる心構えが大切ではないだろうか。

Ⅷ. MR2期と就学時健診

アメリカ合衆国では学校予防接種法によって入学時に接種証明書の提出が義務づけられている。日本にはこのような法律はないが、就学時健診を厳格に運営することで法律があるのと同等の効果をあげることができる。

福井県では就学時健診の調査票や事後措置票の見直しを進めている。予防接種歴の設問では接種年月日を記入してもらうことで正確を期し、未接種のワクチンがあれば事後措置票に記入して入学までに済ませよう指導し、接種済み印をもらった事後措置票を回収することにした。まだすべての市町の足並みは揃っていないが、このシステムが軌道に乗ればMR2期だけでなくすべての定期接種についてさらに高い接種率が得られるだろう。

ま と め

① 高い接種率を目指すためには未接種者を特定して直接勧奨する必要がある。

② そのためには予防接種台帳を整備して接種済率調査をする。

③ MR 3 期・4 期については教育という視点を
忘れないこと。

④ MR 2 期については就学時健診を充実させる
こと。

* * *

第 20 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会

テーマ 「小児リウマチ医療 ～こども達の輝く未来を信じて～」

会 長： 金城 紀子

事 務 局： 琉球大学医学部病態解析医科学講座育成分野（小児科）

事務局 長： 比嘉 睦

会 期： 2010 年 10 月 29 日（金）～31 日（日）

会 場： 沖縄県男女共同参画センター「ていりる」

演 題 募 集： オンラインにて公募致します。※筆頭演者は本学会員に限ります。

〈募集期間〉2010 年 6 月 22 日（火）正午～ 7 月 27 日（火）正午
詳細は下記学会 Web サイトに 2010 年 6 月中旬頃掲載いたします。

奮ってご応募いただきますようお願い申し上げます。

- 学術プログラム： 1) 特別講演・教育講演
(予定) 2) シンポジウム
3) 一般演題（口頭発表、ポスター発表）
4) ランチョンセミナー
5) ミート・ザ・エキスパート

そ の 他： 懇親会、企業展示、ドリンクサービス

運営事務局： 株式会社オフィステイクワン 担当：山田 紀子

〒461-0004 名古屋市東区葵 2-5-6

TEL : 052-930-6145 / FAX : 052-930-6146 / E-mail: praj20@cs-oto.com

URL : <http://www.cs-oto.com/praj20/>